



が、厚労省の定義としては「情報通信技術（ICT＝Information and Communication Technology）を活用した時間や場所を有効に活用できる柔軟な働き方」ということだ。

元々の起源は、1970年代のアメリカで大気汚染による環境問題が深刻化する中で、その対策の一環として通勤をしない（排気ガスを出さない）テレワークが導入されたのだが、現代社会においては「環境問題」から「働き方」に視点があたっているのが特徴だ。

リモートワークはremote workと書き、remoteは「遠隔」を意味する言葉である。テレワークと同じで、事務所以外で働くことを指している



が、その実は明確な定義化がされていない。ただ、テレワークはICTを活用することが前提であるが、リモートワークはその限りではない、というのが特徴としてあるようだ。一方、筆者個人の印象としてだが、行政系はテレワーク、民間系はリモートワークという言葉を使うことが多く、どちらもICTを活用することがほとんどであるため、一般的に「明確に意識して使い分けをしている」ケースは少数派のように思う。

また、呼び方としてはかな

コロナ禍の昨今、感染症対策の一環として「テレワーク」「リモートワーク」が注目されている。元々、働き方改革の一環として徐々に浸透してきた背景があるが、読者のみなさんは意味の違いをご存知だろうか？

リモートワークはremote workと書き、remoteは「遠隔」を意味する言葉である。テレワークと同じで、事務所以外で働くことを指している

り古い「内職」、最近だと「在宅ワーク・勤務」のような言い方をする人を何度か見かけたことはある。

さて、前述のような「テレワーク」「リモートワーク」であるが、最近取り組みが盛んになりつつあるのが「兼業・副業」「ワーケーション」である。兼業・副業は主に都市に居住している人が、自身の専門性や経験を生かして、地方の事業者や地域活動に離れ

所属法人での都市部企業社員を受け入れ風景。遠隔であってもオンラインで完結する

た場所から関わりを持つことが一般的に言われている。コロナ禍の影響により在宅勤務が増え「自己投資の時間が増えた」「先行きが不透明な社会で多様な経験や技術を持ちたい」という人が増えた、かつ、国も政策として推しているため、希望者が急増している。ワーケーション（Work & Vacation（仕事）とVacation（休暇）を合わせた言葉で、端的にいえば旅行先で仕事をすること、仕事の効率向上、学びや出会い、精神の安定など、多様な効果が得られる働き方として注目されている。

⑨ テレワークとリモートワーク

【一般社団法人トナリノ】
SAVE TAKATA（セーブタカタ）が前身組織。「地域の相棒」を合言葉に、広報物制作、商品開発販売、事務局広報代行などのサービスを、分野や地域を超えて提供。ICT支援員3名が所属、デジタル人材の育成にも注力している。事務所は高田大隅のたまご村内のコワーキングスペース「ヤドカリ」。電話番号は47・3287。



執筆者
トナリノ代表理事
佐々木信秋